あさひ職員として

橋本美智子

四月に育児休暇が終わり、職場復帰する時に、通所部門あさひへの異動となりました。今までに、入所部門内での異動は何度かありましたが、今回はあさひへということもあり、期待と不安でドキドキしながらの復帰となりました。

あさひに来て、新鮮に感じる事のひとつに、送迎時に、利用者のご家族から家庭での様子を聞かせてもらうことが挙げられます。「昨日はこんなものを食べたら、このような表情をした」「妹が赤ちゃんを連れてきて、抱っこをした」など、生活の様子を聞くと、その何気ない会話の中から、利用者それぞれに家庭での生活があり、ご家族にとってかけがえのない人であるという事が伝わってきます。

そうしたことから、家庭で生活の出来る利用者の方々は、何を求めて通所を利用されているのか。ご家族は何を期待して大切な家族を通わせたいと考えておられるのか。その期待に応えられるだけの提供ができているだろうか、と考えるようになりました。

私たちに求められているのは家庭では経験できない事だろうと思います。あさひでの経験を積み重ねる事によって、利用者の生活の幅が広がり、より良い生活に繋がっていくのではないかと考えます。実際にあさひでは、利用者の障害や生活経験、好きなものや苦手なものなどを考慮しながら工夫をし、利用者それぞれに合った個別の活動をしています。また、音楽やカラーシーツなどグループで取り組む活動においても、ひとりひとりに合った方法で提供しています。

そういった中で、自分も利用者理解を深め、より良い時間を提供できるよう、また、ご家族にはあさひでの様子をしっかりと伝えていくことで、通わせて良かったと感じてもらえるとともに、信頼していただけるようになりたいと思っています。

（あさひ介護職員）

だいちに異動して

村松　裕子

私は五月一日からだいちに異動しました。おおぞら療育センターに就職してから今年度で八年目になりますが、その大半を座位や立位をとるのに自力では困難な方のゾーンに携わってきました。だいちの利用者は自分で動くことができ、要求も行動で伝えてくれる方たちです。私は今までだいちの方と接する機会が少なく、関わりの経験も浅かったので、不安に思う気持ちがありました。

だいちでの日々も一ヶ月が経ちましたが、こんなことがありました。

私が洗面所にいたとき、ある利用者がやってきて私の方を見ながらコップの入っている扉をあけました。私は何をするのかなと思い、笑いながら扉をしめました。すると次にその利用者は水道の蛇口をあけました。それでも私はよく分からずに蛇口をしめました。すると今度は、コップの入っている扉をあけてから水道の蛇口をあけて私の方を見ました。そこでやっと私は、これは「水が飲みたい」という要求なのだと分かったのです。

他にも、利用者が伝えようとしてくれているのによく分からないことが様々あります。さらに、伝えてくれているのに気づかず他の職員がそれに応えているところを見てやっと分かることも多々あります。利用者の要求に応えられるようになるには、一人一人のことをちゃんと理解しなくてはできないことだなと、あらためて利用者理解の大切さを実感しました。

利用者のことを理解するためには、その利用者の表情や動き、しぐさ、声などの表出を読み取って何が言いたいのか、何を伝えようとしてくれているのか考えます。それは今まで携わっていたどこのグループでも行われていたことでした。障害像が違っても利用者のことを理解するために表出を読み取り、考えるということは一緒なんだということが分かりました。

これからだいちで送る日々のなかで利用者の表出を読み取り、何かを伝えようとしてくれていることを逃さず理解できるように頑張っていきたいと思います。

（だいち介護職員）

2009年度 開催!! フェスタ おおぞら

開催日：平成21年9月13日(日)
時　間：13：00～15：00
場　所：正面外来駐車場
及び施設内ホール等

内容：イベント【電子オルガンコンサート（ローランド芸術文化振興財団助成）、和太鼓演奏、フラダンス】家族の会によるバザー、近隣福祉施設によるフリーマーケット、模擬店

駐車場：聖隷学園第二駐車場

皆様のお越しをお待ちしております。

■■■■フェスタおおぞらボランティア募集■■■■

テント張りなどの会場設定、模擬店の販売員、イベントの補助、駐車場の誘導など、お手伝いしていただける方を募集いたします。活動時間は、一〇時～一六時です。

〈お問い合わせ〉
実行委員会事務局
〇五三－四三七－一四六七
早戸・篠ヶ瀬まで